

第4次新潟市食育推進計画の進行管理等について 委員からいただいた主なご意見（概要）

意見提出期間 令和6年3月22日（金）から29日（金）

意見回答委員 佐藤（勇）委員、高杉委員、馬場委員、松井委員、宮川委員、村井委員、村山委員

1. 食育推進計画の進捗状況と取組状況報告について

資料1：令和4年度新潟市食育推進施策実施状況報告書について

- 成人年齢では1/4近くの方で、朝食欠如となっており、小中学生ではその割合が増加している。
実際に講演会などで朝食の重要性を説明すると、「自分は朝食をとらないが子どもたちにどのように接したらいいか」という疑問を受けることがあり、「朝食時間に一緒にお茶を飲むなど、子どもたちとともに過ごし、朝食をとることを子どもたちに勧めてほしい」と話しており、親世代で朝食をとらない層があることは認めつつ、子どもには朝食を提供するやり方を指導することが重要と思われる。
- 年々悪化傾向にある朝食欠食率についてもやはり、学校などでの教育がもっとあってもよいのではないかと子どもたちの会話から、SNSなどで間違った情報を信じている子が多いように感じる。
- 朝食摂取については、子どもの家庭環境により朝食が難しい場合もあるので、強く啓発しすぎることがないように配慮を。児童だけでなく、保護者の直面している朝食の様々な悩みなどを解決できるような、保護者に向けた取り組みも大切だと感じている。家庭以外での朝食が可能な環境整備についても、今後検討課題として上げてはどうか。
- 学校給食に地場産物を使うことに加えて、有機農産物の使用も積極的に検討してほしいと思う。有機農産物を学校給食に取り入れる取り組みは、全国で広がっており、新潟市でも民間団体がこの活動を始めている。このような取り組みは、子どもたちが地域にもっと関心を持つようになるだけでなく、地域農業の持続可能性を向上させる効果が期待できる。さらに、有機農家とのCSA（地域支援型農業）による連携は食育を推進し、地域全体の食文化を高めることにもつながる。安全かつ健康的な食材を提供することで、地場産物のさらなる活用を促進する取り組みとなるのではないかと。

資料2：令和5年度食育関連事業概要について

- 県立大学とイオンリテール(株)の連携の取組は、非常に良いと感じた。
ただ、残念ながら私の周りでは認知度が低く、「知っていたら購入した」との声もあった。今後もぜひ取組を続けていただき、広まってもらいたい。
- 令和5年度は、新潟県立大学健康栄養学科や調理師専門学校との連携事業により、食育を担う若手の人材育成に取り組んだことは、これまでに無い新たな方向として、評価できると思う。
- 食育・花育センターの「食育ミニ体験」に何度か参加させていただいた。親子共に多くの発見と学びを得ることが出来た。取組状況報告にも多くの親子の食育の取組があるが、周りを見ても興味がある層とそうでない層の差を感じる。関心が希薄な層に対して少しでも積極的なアプローチができるように、PTA行事（出張出前講座）などの活用も検討したらどうか。

資料3：未来の栄養士が考えた『全部盛り弁当』購入者アンケート結果概要について

- 「普段の食生活で気をつけていること」では、「野菜を意識している」がトップを占めている。その通りだと思うし、老人世帯の我が家では、「塩分の多いものを控える」も高位置を占めている。
購入した惣菜や弁当に「ちよい足し」という項目があっても面白いかも。そのことが、結果的には基本目標3に繋がるのではないだろうか。

資料4：新潟市学校給食懇話会からの提言について

- 懇話会では話題にされておらず残念だが、すでに小児科関連の論文として、黙食、食事時間の短縮などにより、直接間接の影響があり、その結果として、食べ残す子どもたちの増加、拒食症を呈する学童生徒の急増が報告されている。
- 小学校から中学校までの切れ目のない食育という意味で、全校での「食缶による全員給食」を支持したい。周りの保護者の期待の声もよく耳にしている。
- 「全校での食缶方式による全員給食化」については、新潟市の子どもたちの健康や食育にとって、非常に画期的なことであり、素晴らしいこと。
「十分な喫食時間の確保」など他の取組についても継続して学校に働きかけていくことも重要な点として、引き続き取り組みを強化いただければと思う。

2. 令和6年度食育推進事業について

資料5：令和6年度 食育推進事業（案）

- 子どもたちに食事の重要性を話すときに、運動能力に直結するという論点は、とても有効だと思われアルビレックス新潟との連携は効果が期待できると思う。実際に学校などで睡眠の重要性を説明する際に、運動能力への影響と学業への影響は、児童生徒の関心が集まることを実感している。
朝食の摂取の有無で学力に差が出ている報告もあり、また、朝食の80%が脳代謝のエネルギーになっているときいたこともあり、勉学を行う上でも、朝食の摂取は重要であることを提示できるとよい。
- 最近の小・中学生を見ていると、タブレット型の学習が進んでいるせいか、プレゼンテーションがとても上手なように感じる。小・中学生の観点から、新潟の食育の現状・改善方法を考えてもらい、プレゼンテーションを行う学びがあっても良いのではないか。
- 朝食摂取の重要性をスポーツ選手の生活から学ぶことは賛成だが、普段からネットを利用している児童は選手の勝負飯などの偏ったグルメ情報やプロテインなどのサプリメント情報を簡単に入手できる。
スポーツ選手と児童自身の栄養の考え方に違いがあることを十分に配慮した指導をしてほしいと思う。
- 新たな取り組みとして、子どもにスポーツを切り口とした食育を実施することを計画されており、子どもの食への関心の高まり、ひいては朝食欠食が減少することが期待される。
ただ、スポーツが好きな子どもは全員ではないので、是非、どのような子どもに効果があったのか、どのような子どもには効果が無いのかを明らかにして、スポーツに関心の無い子どもへの対策も検討が必要と思う。